

なるほど  
 インフォメーション … 138  
 安全・安心マインド 138  
 高速道路の走り方 138  
 雨の日もクリアな視界で 139

夏の避暑対策 …… 140  
 冬のカーライフ …… 141  
 シーズン前の冬じたく 141  
 お出かけまえに 143  
 雪道走行 144  
 冬の駐車ノウハウ 147  
 ディーゼル車の冬の心得 148

な

## るほどインフォメーション

## 安全・安心マインド

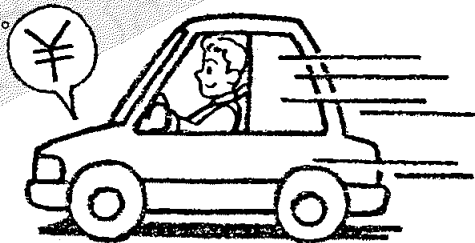
チャイルドシート ジュニアシートが安心です。

予測できない子供の動き。専用シートにすわらせると安心です。



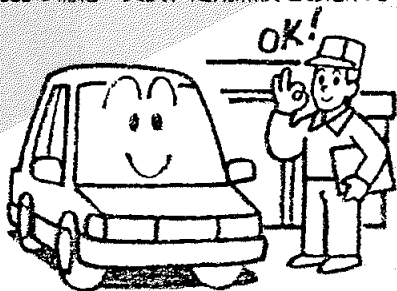
安全運転、結局お得！

不必要な高速運転は燃料のムダ使い。  
車間距離をゆったりとって、安全運転に心がけましょう。



きちんと整備、快適ドライブ

手入れ次第で故障も未然に防げるもの。  
消耗品の補給・交換、定期点検をお忘れなく。



バッテリーだって疲れます。

雨天の夜の渋滞。エアコン、オーディオのフル回転で/バッテリーもバテざみ。

こまめな節電はもちろんのこと、万一のためにブースターケーブルを車に積んでおくと便利です。



## 高速道路の走り方



燃料は満タンに。

高速道路にはいる前に、タイヤの空気圧、冷却水、オイルの量もチェックしましょう。

十分な加速で本線合流。

方向指示は早めに出して、十分加速し、安全確認後、タイミングを狙ってゆるやかに合流します。  
スピードに目が慣れるまで最大限の心くばりを。



車間距離は十分に。

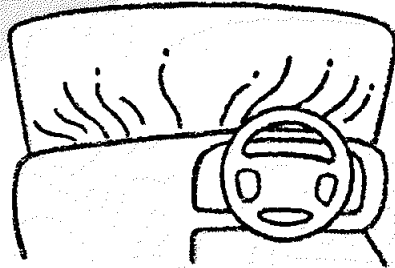
スピードと同じだけの距離(m)の車間距離が必要です。80 km/hで約80 m。20 m間隔のレーンマークが4本、前車との間に見えるように。

80 km/hで  
約80 m

# 雨の日もクリアな視界で

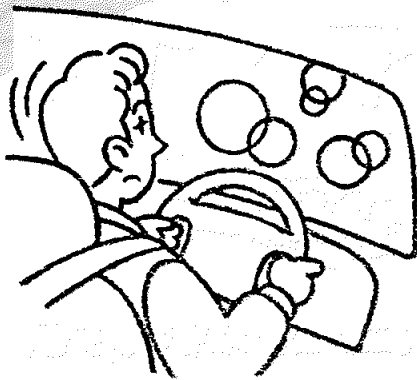
## フロントガラスが曇る。

エアコンで除湿しましょう。吹き出し口を  か  にし、内外気切り替えスイッチを外気導入にします。冬でも除湿としてエアコンを活用しましょう。



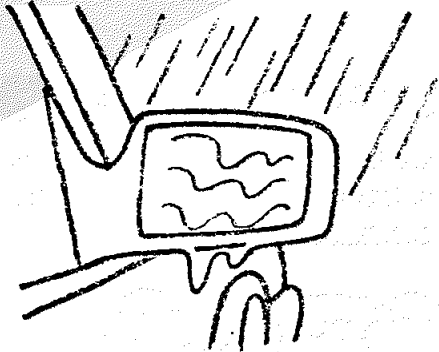
## フロントガラスが油膜でギラギラ。

雨の夜は対向車のライトが乱反射。  
ガラスクリーナーを使ってガラスの表面だけでなくワイパーゴムもきれいにしましょう。



## ミラーが水滴で見づらい。

ガラスコートをぬってあげば、雨水やはね水をはじきます。



SA  
50 kmごと

PA  
15 kmごと

**追い越しが終われば  
走行車線へ。**

追い越し車線は追い越し専用です。追い越した車がインナーミラーに全部写ってからすみやかに走行車線へもどります。

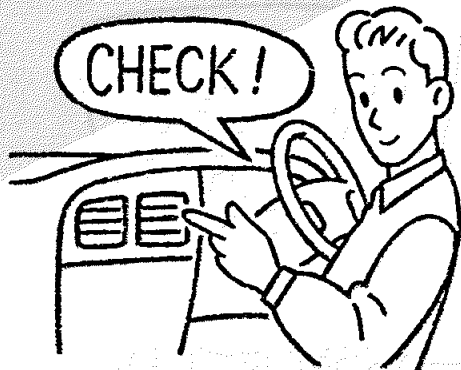
**無理せず休もう。**

疲れたり眠くなったら、SA(サービスエリア)、PA(パーキングエリア)でひと休み。1時間走ったら10分ぐらい、3時間走ったら30～60分ぐらいを目安に。SAは50km、PAは15kmごとにあります。

# 夏の避暑対策

## シーズン前にエアコンチェック。

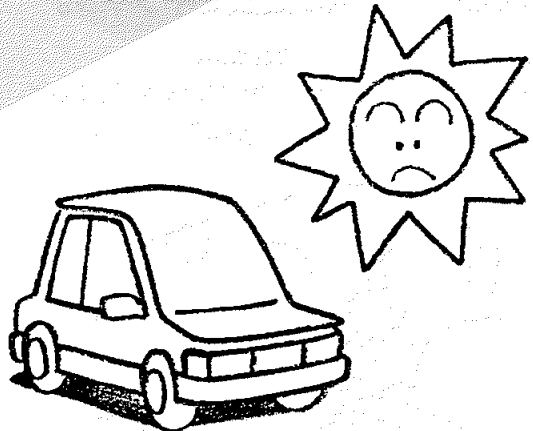
暑くなる前に点検・補充をしておきましょう。



## ボディーカバーでサンシャワーカット。

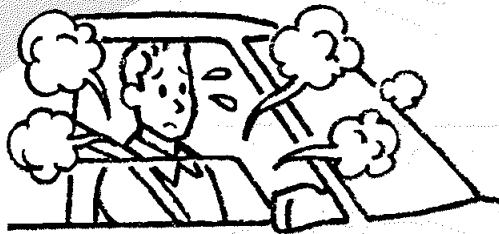
炎天下の駐車では室内温度は予想外。

ボディーに覆いをかけたり、ハンドルやシートにタオルをかけて、室内温度の上昇をおさえましょう。



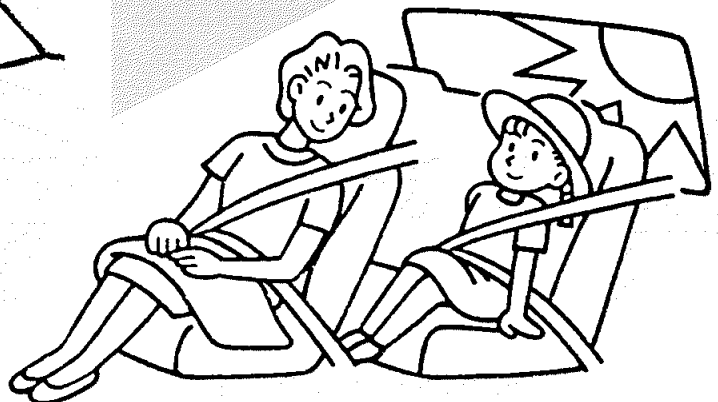
## 熱気を逃してエアコンスタート。

車にもどりいざなりエアコンをかけるのは考えもの。まず窓を開けて熱気を逃してからエアコンを効かせるのが効果的です。



## とにかくエアコンは冷やしすぎ。

冷房に弱いかたはひざ掛けを、リヤシートにすわるかたには帽子を用意するのもひとつの方法です。エアコンの冷やしすぎには気をつけましょう。



# 冬のカーライフ

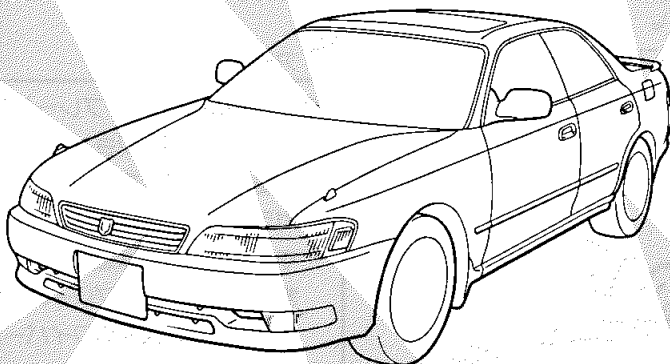
## シーズン前の冬じたく

ウォッシャー液の濃度

→データ1

- 寒冷地用ワイパーブレードの装着
- ワイパー切り替え★  
(切り替え方法は次ページ参照)

水抜き剤などで燃料タンクの水分排出



冷却水の濃度(トヨタ純正ロングライフクーラント)

→データ2

外気温に応じたエンジンオイル

→データ3

タイヤチェーンの準備  
冬用タイヤの装着

4輪とも指定サイズの同一銘柄のものに交換

### データ1 (ウォッシャー液の濃度)

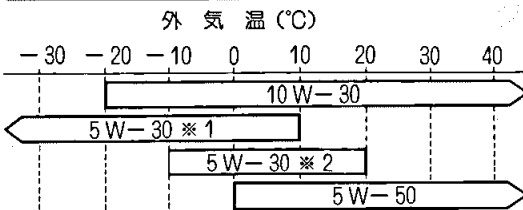
使用地域・季節	希釈割合	凍結温度
通常	原液1に水3	-7°C
温暖地の冬期	原液1に水2	-10°C
寒冷地の冬期	原液1に水1	-20°C
極寒地の冬期	原液のまま	-50°C以下

### データ2 (冷却水の濃度)

使用地域	希釈割合	凍結保証温度
温暖地	30%	-12°C
寒冷地	50%	-35°C

### データ3 (エンジンオイルの粘度)

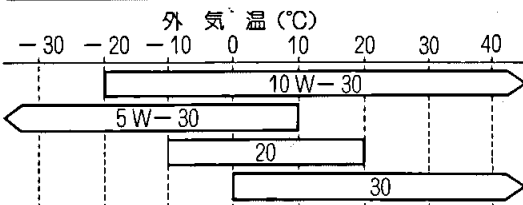
#### ガソリン車(SAE粘度)



※1 1JZ-GTE、1G-FE、4S-FE搭載車  
(5W-30は寒冷時しか使用できません)

※2 2JZ-GE、1JZ-GE搭載車

#### ディーゼル車(SAE粘度)



●5W-30は寒冷時しか使用できません。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

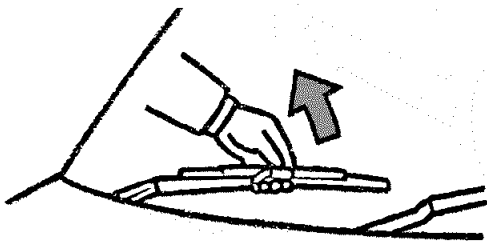
## ワイパーの切り替え方

寒冷地仕様車、スノーバージョン車

フロントガラスに多量の雪が積もった場合、ワイパーが上がらなくなりワイパーモーターを損傷することがあります。

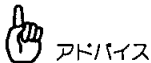
次の手順でフルコンシールド式からセミコンシールド式に切り替えてください。

1 ワイパーアームのフック部を持ち、ガラス面にそって引き上げます。



注意

ブレードのみを持って引き上げないでください。ブレードが変形するおそれがあります。必ずフック部を持ってください。

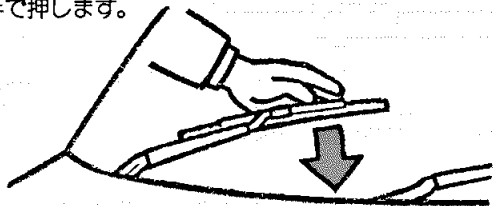


アドバイス

フルコンシールドの状態ワイパー作動中、ワイパー停止位置に雪がたまと自動的にフルコンシールドからセミコンシールドに切り替わる構造になっていますが雪のたまり方によっては切り替わらずにコツン、コツンと音がする場合があります。

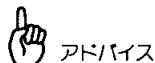
音がしたらセミコンシールド式に切り替えて雪を取り除いてください。

フルコンシールド式にもどすときは、フック上部を手で押します。



## 寒冷地用ワイパーブレードについて

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおっています。



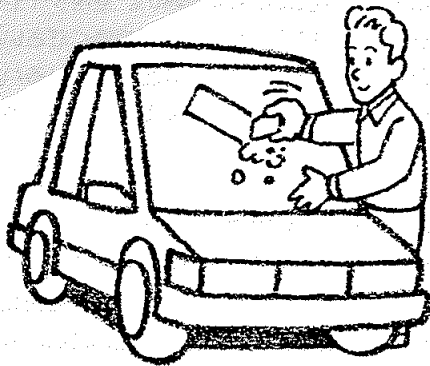
アドバイス

- 寒冷地用ワイパーブレードは、寒冷地仕様車、スノーバージョン車のみ装着できます。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。寒冷地用ワイパーブレードを必要としない降雪期以外は、通常のワイパーブレードを使用してください。

## お出かけまえに

### ガラスについての霜取り。

プラスチックの板を使うとガラスに傷をつけずに素早く落とすことができます。

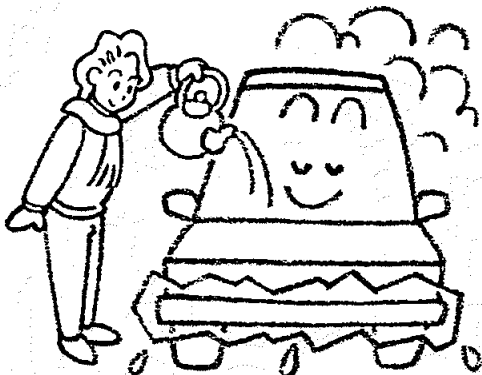


### 車が凍ったら。

ワイパー、電動リモコンミラー、パワーウィンドウなどが凍って動かなくなることもあります。

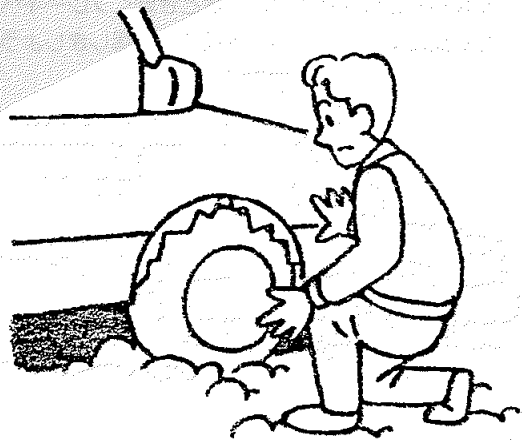
無理に動かそうとしてスイッチを押し続けたりすると、装置をいためたり、バッテリーあがりをおこすおそれがあります。

またドアが凍結したときは無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、損傷するおそれがあります。そんなときはお湯をかけて氷を溶かしてください。なお、すぐに水分を十分ふき取ってください。



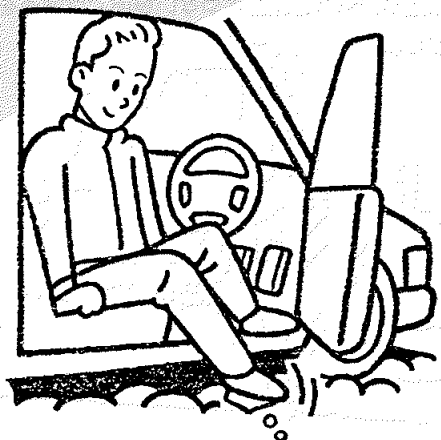
### 足まわりの着氷。

車の下をのぞいて、足まわりに付着した氷塊を車体などに傷をつけないように取り除いてください。



### ペダル操作時のすべり防止。

乗車時、靴についた雪をよく落としてください。

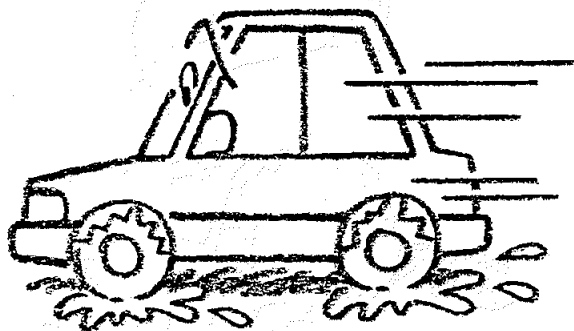


## 雪道走行

### 着氷のいたすら。

走行中にはね上げた雪や水は、車に付着して氷になります。フェンダー裏側に付着するとハンドル操作に影響しますのでときどき確認し、大きくなる前に取り除きましょう。

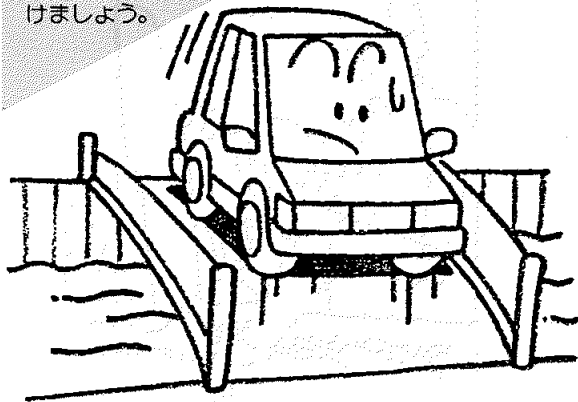
ブレーキ装置に付着するとブレーキの効きが悪くなる場合がありますので、ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認しましょう。



### スリップにご用心。

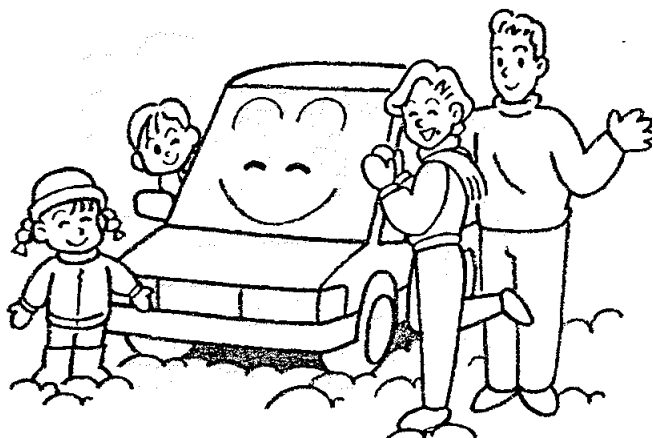
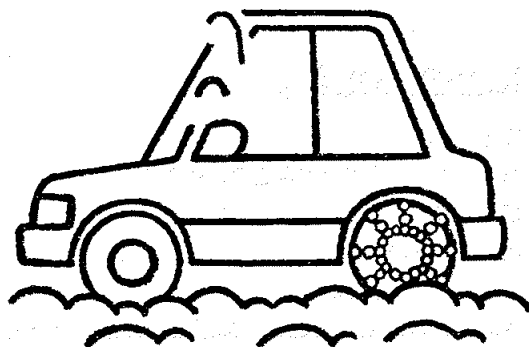
ゆっくりスタート、ひかえめな速度で走行中も“急”のつく動作は厳禁です。

橋の上や日陰など凍結しやすい場所では減速を心掛けましょう。



### タイヤチェーン、冬用タイヤの装着

- 積雪路、凍結路では早めにタイヤチェーンまたは冬用タイヤを装着してください。冬用タイヤの装着サイズについては販売店にご相談ください。
- ツアラーV、ツアラーSに装着されているハイグリップタイヤは、一般走行時でのグリップ性能を重視して作られています。積雪路、凍結路では一般のタイヤに比べグリップ性能がより低下します。積雪路、凍結路では必ず冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着し、速度を控えめにして運転してください。なお、タイヤチェーンを後輪に装着しても前輪のグリップ性能は低いため、より慎重に運転してください。



## タイヤチェーンの取り付け方

- タイヤチェーンは後2輪に取り付けます。
- タイヤチェーンはタイヤサイズにあったものを使用してください。
- タイヤチェーンの取り付け、取り扱い方法は、タイヤチェーンに付属の取扱書にしたがってください。

195/65 R 15 91 H、205/60 R 15 91 H、205/55 R 16 89 V、225/50 R 16 92 V タイヤを装着されている方は、必ずマークII専用のトヨタ純正品を使用してください。トヨタ純正品以外のチェーンを使用すると車体側に当たり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。



### アドバイス

- スチールホイールはホイールキャップをはずしてから、タイヤチェーンを取り付けてください。ホイールキャップをつけたままタイヤチェーンを取り付けると、ホイールキャップに傷がつくおそれがあります。
- アルミホイールにタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷がつくおそれがあります。

## 標準的なタイヤチェーン (スチールチェーン)の取り付け方

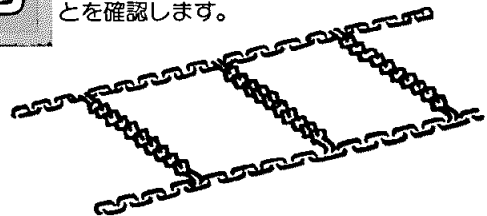
### チェーンを取りつけるまえに

- ①安全に作業できる平らな場所に移動します。
  - パーキングブレーキをかけエンジンを止めます。
  - チェンジレバーをマニュアル車は1速、オートマチック車はPの位置にします。
  - 非常点滅灯を点滅させ、停止表示板(または停止表示灯)を使用します。
- ②輪止め、ジャッキ、ジャッキハンドル、タイヤチェーンを取り出します。  
154 ページ参照

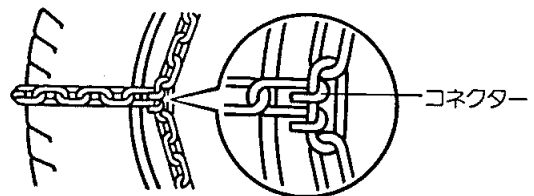
1 チェーンを取りつける後輪と対角の位置にある前輪の前側に輪止めをします。

2 チェーンを取りつける後輪をジャッキアップします。  
→ 155 ページ参照

3 チェーンを路面にひろげて、ねじれがないことを確認します。

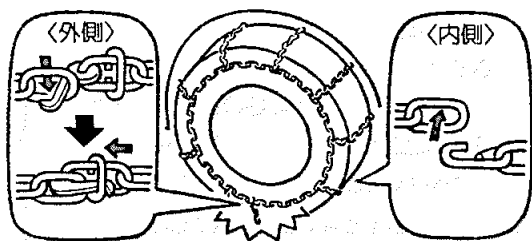


4 コネクターの折り曲げが外側を向くようにタイヤにかぶせます。



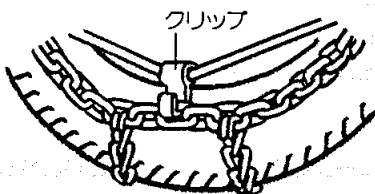
**5** チェーンの両端をいっぱい引っ張り、内側から先に連結します。

- チェーンが内側、外側のどちらか一方に片寄っていないか確かめ、外側のチェーンもいっぱい引っ張り連結します。



**6** 余ったチェーンは車体にあたるのを防ぐため針金で固定します。

**7** チェーンバンドはクリップの爪が外側を向くように均等にチェーンにかけます。



**8** 車体をおろし、輪止めをはずします。

**9** 2～3分走行し、チェーンのゆるみ、はずれがないか確認します。

**アドバイス**

チェーンを取りはずすときは外側からはずしてください。

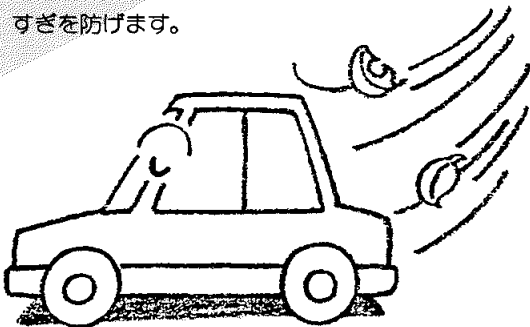
**注意**

- タイヤチェーン(スチールチェーン)を装着しているときは、30 km/h以上で走行しないでください。タイヤチェーンにかかる負荷が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。
- タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗り越えたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。

# 冬の駐車ノウハウ

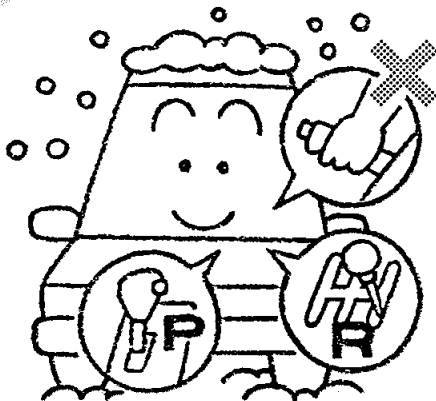
## 風下に向けて冷え込み対策。

風のアたる部分は、予想以上に低温となります。バッテリーあがりを防ぐためにもボンネット側を風下に向けて駐車しましょう。ラジエター前面にカバーをつけるとエンジンの冷えすぎを防げます。



## パーキングブレーキはかけちゃダメ。

寒冷時はパーキングブレーキをかけるとブレーキ装置が凍結してパーキングブレーキが解除できなくなるおそれがあります。チェンジレバーをオートマチック車はP、マニュアル車はDまたはRにいれておきましょう。



## ワイパーアームは立てて安心。

寒冷地仕様車、スノーバージョン車は、ワイパーを立てることができます。

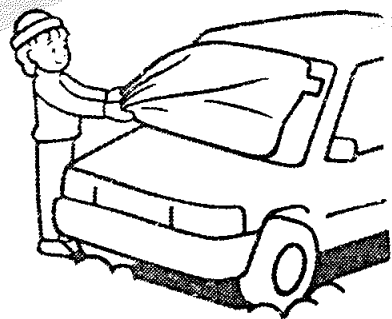
降雪時は寒さでワイパーゴムがガラスに凍りついてしまいますので、ワイパーアームを立てて駐車すると便利です。

ワイパーアームを立てるときは必ずセミコン式に切り替えてください。



## ウィンドウマスクは強い味方。

早朝のお出かけでも、フロントガラスの霜を取るわずらわしさがありません。



# ディーゼル車の冬の心得

## ディーゼル車の燃料

軽油は外気温が低温になると凍結し、燃料配管の詰まりなどの故障の原因となります。

寒冷地へ行くときは、現地へ着くまでに残量を半分（燃料計目盛りの1/2以下）にしておき、現地に着いたら下表にしたがってできるだけ早く寒冷地用燃料を補給してください。



注意

フェリーを利用する場合は、寒冷地に着いてすぐ寒冷地用燃料を補給できるよう、あらかじめ燃料を半分以下にしておいてください。寒冷地用燃料を半分以上補給しないと燃料が凍結し、燃料配管などが詰まるおそれがあります。

	使用燃料		
	JIS2号 軽油	JIS3号 軽油	JIS特3号 軽油
使用限界温度*	-5.0℃	-12℃	-19℃

\*環境や使用状況によって異なります。